

顎顔面外科高度先進治療学入門（小林 優）

Introduction to Advanced Oro-facial Surgery (Masaru Kobayashi)

キーワード

- ① 口腔前癌病変
- ② 口腔癌
- ③ 上部消化管内視鏡検査（重複癌の検査）
- ④ 超選択的動注化学療法
- ⑤ 手術療法

授業概要

口腔癌の成り立ち（発生機序）や背景因子（疫学）について概説するとともに、検診等での早期発見のポイントについて詳述する。また、口腔癌と他臓器重複癌との関係、特に重複頻度の高い食道癌の検査法（食道内視鏡検査等）や食道癌の存在が確認された場合の治療法の選択について解説する。さらに、口腔癌の治療法として今後の発展が期待されている超選択的動注化学療法について、その最前線を紹介する。

授業科目の学修目標

口腔癌は年間7,000人が罹患し、3,000人が死亡する重大疾患である。口腔癌の早期発見における歯科医師の役割や診断を確定するための適切な検査の進め方、最適な治療法の選択と予後の推定法、機能温存を目指した最新治療の動向などについて幅広い知見を習得することを目的とする。

授業計画

- ① 口腔癌の検査と治療（全14コマ）
 - ・口腔癌とは 2コマ 小林優
 - ・発癌のメカニズム 4コマ 小林優
 - ・前癌病変と早期発見のポイント 4コマ 小林優
 - ・口腔癌の手術療法 4コマ 小林優
- ② 重複癌の検査と治療（全8コマ）
 - ・食道癌概論 4コマ 小林優
 - ・上部消化管の検査と治療 4コマ 小林優
- ③ 超選択的動注化学療法の最前線（全4コマ）
 - ・切らずに治す口腔癌治療 4コマ 小林優
- ④ 臨床研究の基礎知識（全4コマ） 小林優

教科書および参考書

口腔外科学 医歯薬出版

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

口腔癌における分類法、診断法、治療法などに関する最新の論文やガイドラインを熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 発癌のメカニズムを説明できる。
- ② 口腔癌の特徴を説明できる。
- ③ 口腔癌の早期発見における歯科医師の役割を説明できる。
- ④ 口腔癌の検査法を挙げることができる。
- ⑤ 口腔癌の治療法を説明できる。
- ⑥ 口腔癌の予後を説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%	0%

評価の要点

- ・小テスト：各講義毎に理解度を判定する。1%×30回=30%
- ・レポート：授業計画に挙げられた三項目の要約を提出する。10%×3回=30%
- ・ポートフォリオ：講座終了時に提出する。1回40%

理想的な達成レベルの目安

総合評価で70%以上の達成を求める。